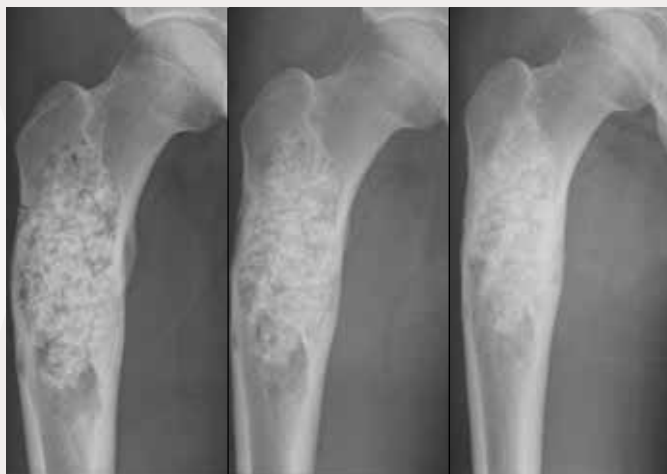


大腿骨単純性骨のう腫

11歳時、病的骨折にて右大腿骨骨腫瘍を発見され、まず、保存的に骨癒合を得てから、病巣搔爬および人工骨充填術を施行された。その後、再発し病巣が拡大したため、16歳時、病巣搔爬後の骨欠損に対して、スーパーポア顆粒KG-4 (2.0mm-4.0mm) 5gを6バック、KB-1 (10×10×10mm) ブロックを5個充填した。



術直後

術後3ヶ月

術後6ヶ月

術後3ヶ月にて人工骨周囲の不明瞭化、人工骨間隙の硬化像を認めている。
術後6ヶ月では、人工骨間隙の硬化像は進行し、人工骨の形状も不明瞭となり、リモデリングが進行している。